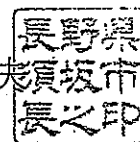


請 願 者

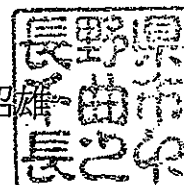
須坂市長

三木正夫



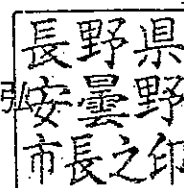
千曲市長

岡田昭雄



安曇野市長

宮澤宗弘



請願の要旨

須坂・千曲・安曇野の各建設事務所の存続を請願します。

須坂・千曲・安曇野建設事務所 の存続を！

長野県は本州中央部に位置し、県歌「信濃の国」にも歌われているようにいくつもの山々や河川に区切られ、それぞれのエリアにおいて降雨・降雪などの自然環境や土壌・地形などの物理的条件、住んでいる県民の文化習慣及び管内の市町村規模など多様となっています。そのため、建設事務所はそれぞれ条件の違う自然環境や地形等の物理的条件、県民の文化習慣及び各市町村の技術職員の有無に伴う技術的支援などの要望に対応すべく設置され、県民の期待に応えてきました。

建設事務所は、管轄区域の県民の要望に基づく砂防、急傾斜、道路及び河川整備等及びこれらの維持管理を行うことにより、県民の安全安心を確保し、地域に寄り添った頼られる存在となっています。この状態を維持していくには一定の規模の人員とそれぞれの地域の課題に対応できる独立性の伴う予算執行や許可権限などが必要です。

よって、須坂・千曲・安曇野建設事務所の存続を強く要望するものです。

各建設事務所の特色

・須坂建設事務所

須坂建設事務所管内は、善光寺平の東部、千曲川右岸に位置し、東側山麓は、県境の草津白根・四阿山火山群が形成した五味池破風高原や菅平高原等の自然環境に恵まれた地域であり、管内一帯は、一級河川百々川や松川等が形成する段丘や扇状地、千曲川氾濫堆積地上にあり、果樹園を中心とする農地や外延部に集落が分布しています。

このような現状の中、異常降雪や大雨による河川の氾濫等の災害により交通が遮断された場合、千曲川を挟み、長野市に隣接する須坂市、小布施町、高山村の経済的損失は多大なものになると推測されます。

そのため、須坂建設事務所の存在は、現地機関の意思決定の迅速化、独立化が確保されており、初期対応を素早く行う事が可能です。

千曲川に隣接する人口密度の高い須坂市を始めとする管内の災害復旧や初期対応がスムーズに実施する事が可能であり、損失の大幅な軽減が可能となる須坂建設事務所としての存続を強く要望します。

・千曲建設事務所

千曲建設事務所が管轄するエリアは、千曲市と坂城町で、善光寺平の南端に位置し、鏡台山と聖山に挟まれた狭隘区間の中央に千曲川が流れ、その右岸は長野市を中心とした北信濃と関東圏を結ぶ上信越自動車道、北陸新幹線、しなの鉄道及び国道18号が近接し、左岸は長野市を中心とした北信濃と中京関西圏を結ぶ長野自動車道、18号バイパス、JR、主要地方道が通る交通の要衝地となっています。

このような交通の要衝を抱える地域で、異常降雪や豪雨による河川の氾濫等が発生した場合、千曲市及び坂城町の被る災害は甚大なものとなると推測され、のみならず千曲市以北の長野市を中心とした北信濃地域と関東及び中京圏の交通が分断されることとなり、経済的損失は更に大きなものになると推測されます。また、現在の行政区分は、千曲建設事務所の管轄エリアと千曲警察署と同じ管轄エリアのため県民の安全・安心な暮らしを支える役割も担っています。

つきましては、現地機関の意思決定の迅速性、独立性が確保されていて、初期対応から本格復旧までを素早く行い、損失の大幅な軽減を可能とすることが出来る千曲建設事務所の存続を強く要望します。

・安曇野建設事務所

安曇野地域は、長野県のほぼ中西部に位置し、西方には中部山岳国立公園である北アルプス連峰が連なり、槍ヶ岳に源を発する犀川と、北から南下する高瀬川にはさまれ、中央には穂高川、烏川、黒沢川が扇状地を作り、豊かな自然環境や地域資源に恵まれ、多くの人々に親しまれています。

また、管内のほぼ中央を南北に国道 147 号と J R 大糸線が並行し、東部には長野自動車道と国道 19 号線及び J R 篠ノ井線が走り、これらを骨格とした東西を結ぶ県道ネットワークが形成されています。近年は、観光産業や情報産業等が発展して県内外との交流が高まってきています。

安曇野建設事務所が管轄する市町村は、平成の大合併以降、安曇野市のみとなり、現在は、一市一事務所の形態となっており、安曇野市民の安全・安心な暮らしを支える役割を担っています。

また、東日本大震災の教訓や、糸魚川静岡構造線の危険性の高まりを踏まえる中、危機管理の上からも、安曇野市では、安曇野警察署管内と建設事務所が同エリアで、市民（県民）の安全・安心を確保することが重要と考えており、安曇野建設事務所の存続を強く

要望します。